

個を生かし、自ら学ぶ意欲を持たせる指導の工夫  
ー 4年「くらしを高めるねがい」の単元における問題解決的学習を通して ー

目 次

I	研究テーマ設定の理由	1
II	研究の仮説	1
III	研究の全体構想図	2
IV	研究の内容	3
1	社会科における新学力観について	
(1)	学習意欲	3
(2)	個を生かす	4
(3)	社会科と個の尊重	5
2	問題解決的な学習	5
(1)	問題解決的学習と問題解決的な学習の違い	5
(2)	問題解決的な学習における工夫・留意点	6
①	「学習問題」をいかに持たせるか	6
②	一単元一学習問題	8
3	地域教材の開発	10
(1)	社会科における地域学習の意義	10
(2)	「さとうづくり」について	11
4	評価について	12
V	授業実践	13
1	単元名	13
2	単元目標	13
3	単元の構成	13
4	小単元名	13
5	指導計画	16
6	第一次（1時）の学習	16
7	本時の学習（第三次の1時）	18
VI	研究の成果と今後の課題	20

## 個を生かし、自ら学ぶ意欲を持たせる指導の工夫 － 4年「くらしを高めるねがい」の単元における問題解決的学習を通して －

宜野湾市立普天間第二小学校 教諭 比嘉雅江

### I テーマ設定の理由

科学技術の発達により、ますます情報化、国際化の進むなか、今日の教育に期待されていることの一つに、「国際社会に生きる日本人としての資質を養う」ということがある。国際化に対応するためには、他国を理解・尊重し、共存することが重要であることはだれしも認めるところであろうが、そのためには、まず、自分の国...日本について理解すること、自分の住んでいる地域について知り、誇りを持つことが大切であると考えられる。

社会科の教育における指導上の努力点の一つである「地域教材の開発に努める」という中に「地域の自然文化の特色や先人の業績等を理解し、誇りを抱かせるため、各学年で地域素材の教材化に努める」とあり、郷土学習の大切さが打ち出されている。

一方、新しい学力観に立つ教育では、「自から学ぶ意欲」とともに、「個性を生かす教育」の充実が要求され、個人差に応じた教育の必要性が指摘されている。社会科における地域教材の開発・工夫はこのような今日的課題にうまく対応できるものであると思われる

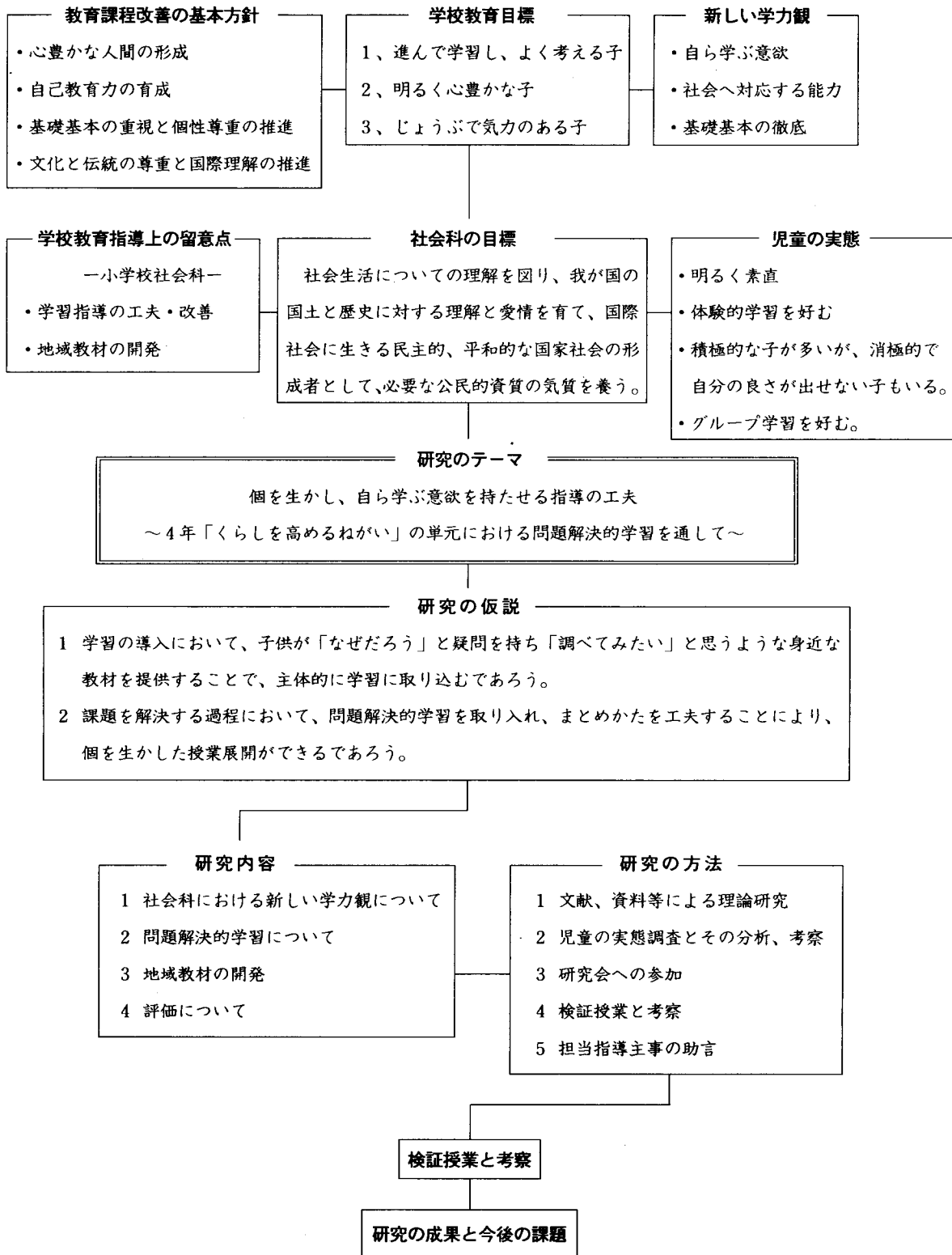
現在受け持っている4年生で、社会科が好きという子は割と多い。理由は「見学がある」「調べ学習がある」などの、体験的な学習がよくあることをあげている。その中で「いろんなことが分かる」ので「楽しい」というのである。また、「新聞作りがあるから」好きだという子もいた。ところが、この「新聞作り」は社会科が嫌いな理由にもあげられている。他に嫌いな理由は「意味が分からない」とか、「楽しくないから」などという子もいた。これらの子供達の声は私の授業の改善点を指摘しているものと受けとめられよう。意味が分からないということとは、せっかく見学などをしても、目的意識をはっきりもたず、それをきちんとまとめて自分のものにする作業がうまくいかなかったことであろう。又、まとめ方が新聞作りや作文などに片より、画一的であったことは、個を生かすことが十分できなかったことにもなる。

個人差を配慮しながら、子供の目を社会に開かせ、主体的に学ぼうとする姿勢を身につけさせるには、教師はどのような工夫をしたらよいのだろうか。その手立てとして、身近な地域に目を向け、自分の足元を掘り起こし見つめ直すことで、地域で学ぶ感動を味わい、主体的に学び続ける姿勢を身につけられたらと考え、本テーマを設定した。

### II 研究仮説

- 1 学習の導入において、子供が「なぜだろう」と疑問を持ち「調べてみたい」と思うような身近な地域教材を提供することで、主体的に学習に取り組むであろう。
- 2 課題を解決する過程において、問題解決的学習を取り入れ、まとめ方を工夫させることにより、個を生かした授業展開ができるであろう。

### III 研究の全体構想



## Ⅳ 研究の内容

### 1 社会科における新学力観について

第15期中央教育審議会は第一次答申で、子供に「生きる力」と「ゆとり」を大切にすることを打ち出した。これからの変化の激しい、先行き不透明な厳しい時代において、子供たちに「生きる力」を育む必要性を説いている。ここで言う「生きる力」とは、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力、及び、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動するところなど豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力ととらえている。専門委員の山極 隆は、「我が国の学校教育は、伝統的に多くの知識や技能を教師から子供へ伝達することに力が注がれ、マニュアルにしたがって学習はできても、自分で課題を見つけ、構想を立て、自由な発想を巡らし、問題解決する力は、必ずしも十分でないと言われている。—中略—与えられた問題や条件の中から、一つの回答を発見し、追求の仕方を考え、創造し、自分の考えを筋道立てて表現、発表、討論するといった論理的、創造的な思考が、より一層重視されているのである。—中略—そのためには、日ごろの授業で、観察、実験、調査活動、体験的な活動、問題解決型の学習、課題研究、創意ある報告書の作成、現地での学習、発表と討論、インターネットの活用などが、ゆとりをもって行われ、これらの学習活動が、授業の中核を占めるようになることが肝要」であるとして、「生きる力」を育てるために必要となる学習活動として、次のような例を取り上げている。

- ◆ 的確に情報を読み取る力
- ◆ 問題を捜し出す力
- ◆ 問いの立て方と展開の仕方
- ◆ 物事の理論の筋道を追う力
- ◆ 受け取った情報を基に、理論的に自分の考えを展開する力

これらの力をつけさせるために、「多彩な指導法を駆使し、能力、適正などの異なる児童に対して、確実に内容を身につけさせる努力を教師は払う必要がある」としている。（山極 隆 講演会『生きる力』と『ゆとり』より）生涯教育においても重要な課題である「生きる力」を育むためにも、学校は、知識を教え込む教育から自ら学び、自ら考える教育を行って行く上で、問題解決的な学習や体験的な学習の一層の充実を図り、子供たちの発達段階に応じた、チームティーチング、グループ学習、個別学習などと併せて、個に応じた指導の充実を図ることも大切である。

#### (1) 学習意欲

自ら学び、自ら考える教育においては、子供の学習意欲が重要となってくる。今までの教育は、教師や親からの外発的意欲を中心に行われてきた傾向がある。それが今日の他律的で無気力な子供たちの実態を生み出したということが反省されるようになってきた。また、子供の興味や知的好奇心を重視した従来の動機づけについても見直しが求められている。面白くなければ学ぼうとしない子が増える傾向をもたらしたからである

このような反省から、内発的な学習意欲について近年、教育学者や心理学者の間で、多くの研究がなされるようになってきた。学習意欲を育てるにあたって、自律的であることが内発的動機づけを高めると言われており、自律性の支援と授業過程の関連について鹿毛雅治（慶応義塾大）は、次のようにまとめている。

教師の教育観と授業過程

構造	自律性支援H群	自律性支援L群
課題構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の反応に対応して変化する授業の展開 (ex. 開かれた質問が多い)</li> <li>・知的好奇心を換気する工夫(ex. 認知的ズレの利用、導入の工夫)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の反応に依存しない授業の展開</li> <li>・教師による説明が中心</li> </ul>
権威構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会者としての教師</li> <li>・指示、拒否の文末表現がやわらか</li> <li>・児童への謝罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の規準の強制</li> <li>・指示、拒否が直接的</li> </ul>
評価構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗、誤答の受容</li> <li>・児童による正誤判断</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正誤の極端な強調と強化</li> <li>・教師による正誤判断</li> </ul>

(日本心理学会第59回大会 公開シンポジウム資料より)

これは、子供の内発的動機づけを高めるための授業の在り方を示唆するものと言える。

(2) 個を生かす (子供の良さを生かす)

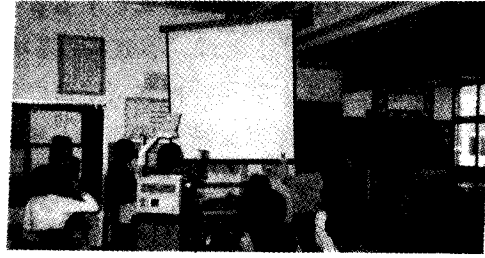
日本の教育の水準の高さは、世界に類を見ないと言われており、これは、多くの子供をより効果的に教えることができ、一定の学習効果の期待できる一斉指導によるものであった。しかし、かつて経験したことのない豊かな社会になった現在、教育の問題が続出し、一斉指導の在り方についても問題点が指摘されるようになった。それは常に集団としての全体に対峙するために、「落ちこぼれ」とか「登校拒否」など、一人ひとりへの配慮とか対応が欠落するためにおこる問題が現れてきたのである。個人差に応ずるとは、子の問題への解決の糸口のはずである。では、個人差とは何か。その違いを明確にし、その視点からどうやって、授業へ生かして行けばいいのかを考えてみたい。まず個人差に対応する五つの視点である。

- ① 一人ひとりの達成度の違い
- ② 学習速度の違い
- ③ 見方・考え方や学習の進め方の違い
- ④ 興味・関心の違い
- ⑤ 生活経験の違い

このような個人差への対応には、大別して二つの方向がある。その一つは、違いを無くすことであり、それはどの子供にも学力を保証することである。もう一つは、違いを大切にすることであり、一人ひとりの子供を個性豊かな人間に育てることを目指している。つまり、個人差への対応ということは、学力保証と個性尊重のどちらをも欠かすことのできないものであると言える。このことを踏まえたうえで指導の改善を図るために次の

ような工夫がある。

- ① 一斉指導における個別指導の工夫
  - ア グループ学習の取り入れ
  - イ ワークシートなどの教材の工夫
  - ウ 形成的評価の利用
  - エ 教育機器の活用



- ② 弾力的な教授組織(チームティーチング)による学習指導の工夫
- ③ オープンスペースを活用した学習指導の工夫
- ④ 学習の遅れがちな児童に対する補充指導の工夫

### (3) 社会科と個の尊重

個性的なものを大切にすることは、社会科の本質にかかわる重要なことである。社会科とは、社会認識を育てることを任務とする教科であり、自らもその一員である社会について何らかの事が分かるということである。社会認識の育成を目的とする社会科では、あくまで自分の目で確かめ、自分の頭で考えるということを求めている。その子供なりの見方、考え方、分かり方を重視しているのである。立場のない社会認識はないという社会認識の性格に基づいているため、社会科では一人ひとりの主体性を大切にするのである。急変し、多価値である現代の社会に生きるためには、自分の立場を確立したうえで相手の立場を受け入れる共感的態度が特に重要である。社会科では社会についての単なる知識だけではなく、自らがその社会の中に生きていることを知るという主体的な社会認識を目指しているのである。

## 2 問題解決的な学習

変化の激しい現代社会の中で「自ら学ぶ意欲を持ち、変化する社会に主体的に対応する能力」を育てることが今の学校教育に強く求められている。その教育の方法として問題解決的な学習は、今最も注目され、研究が重ねられているものの一つである。

### (1) 問題解決学習と問題解決的な学習の違い

本来「問題解決学習」は、一学習方法の原理を意味するものではなかった。社会科の教育内容をあらかじめ、固定化しないで、子供自身の社会的経験を内容編成の枠組みとしたものであった。すなわち、子供の生活とのダイナミックな交渉のなかで醸成されて来る関心や願いや必要感にもとづいて構成される切実な問題の追求(解決)を通して、子供の知識と態度を一体的に成立させていくこと(知的追求と生きざまの結合)をめざす社会科学学習を意味したのである。「問題解決学習」と「問題解決的な学習ないし活動」との違いは、「問題」をどのようなものとしてとらえるか(理解するか)にある。教育内容を教える側であらかじめ固定化しないで、子供ら自身の「問題」を追求させていくことによる授業展開と、教える側で教育内容をあらかじめ決定し、課題なり問題なりの形に設定しなおして子供らが問題解決的方法で学習して行くのとは、似て異なるものである。前者では、「問題」と「解決」を不可分のものとして成立させ、後者では

問題設定（問題作成、問題構成）する者と、それを解決していくものとは別々である「問題解決的アプローチ」とは、各教科の基礎的・基本的と言われる知識を学習していく際の、一学習方法として、問題の把握（問題の発見）、予想の提出（問題の追究）、問題の解決という一連の思考過程を踏まえさせた授業を重視していくものである。（新学力観に立つ問題解決的な授業づくり 授業研究21 95年4月号臨刊）

(2) 問題解決的な学習における工夫・留意点

① 「学習問題」をいかに持たせるか

「子供たちが、意欲的に学習を展開するキーポイントは、教師が、子供たちに学習問題をどうつかませるか、問題意識をどう持たせるかである」と、北 俊夫が述べているように、学習問題をいかに作るか、が問題解決的な学習の成否を決める一つの大きなポイントである。「学習問題」は、子供と教師の共同の営みの中から生まれてくるものであり、「学習問題づくりの工夫」という中では学習問題をつくっていくプロセスや手順を大事にして行かなければならない。

ア 学習問題の種類

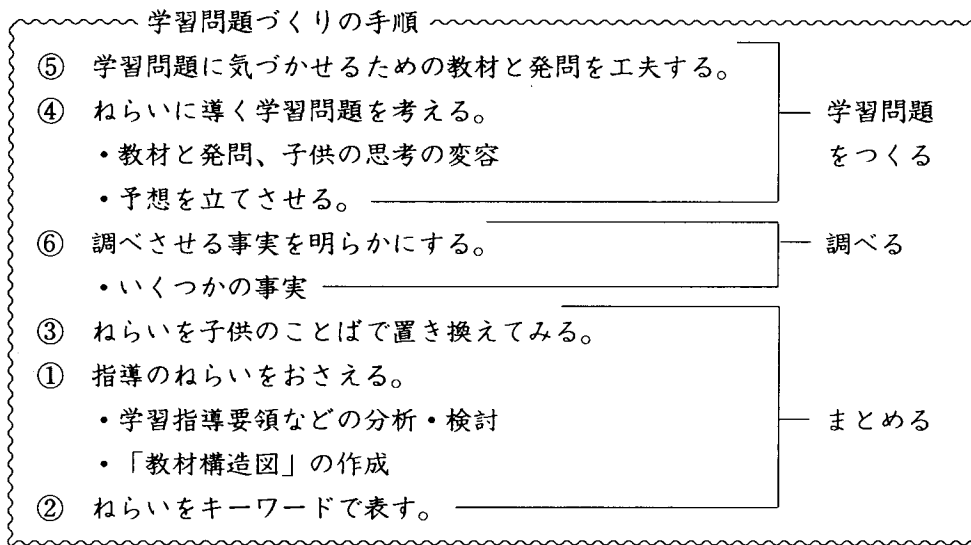
類 型	タ イ プ	問 題 例（4年）
事実追究型	社会的な事実のありのままを調べさせるタイプ	沖縄県の土地の様子は、どのようになっているでしょうか。
論理的追究型 ・特色思考型（どのような） ・原因思考型（なぜ） ・過程思考型（どのように） ・比較思考型（ちがいは） ・条件思考型（もし）	論理的な思考を伴うもの 事実を総合して全体的な特色や傾向を捕らえさせようとするタイプ なぜそうなのか、結果に対する原因を追究させるタイプ 「どうして」というキーワードが使われる場合もある。 事実と事実の間にあるブラックボックスの部分を追究させるタイプ。時間的な、あるいは、距離的なプロセスを追究させ、間をつなげる思考がはたらく。 二つ以上の事実・事象の相違点を発見させ、その意味を考えさせるタイプ。 仮定にもとづいて思考させながら、追究させて行くタイプ。	十日町の人々は、雪がたくさん降る中で、どのような暮らしをしているのだろうか。 沖縄県では、なぜ、さとうきびづくりがさかんになったのでしょうか。 水道の水は、どこからどのように家や学校に来ているのでしょうか。 もし学校が火事になったら、消防自動車はどこに配置されるのでしょうか。
探検型	学校から実際に外に出て、見たり聞いたり、さらに探し出したりする学習活動を促すタイプ。	町のゴミを出す場所（ゴミステーション）をさがそう。
意志決定型	子供自身に自分なりの考えを表出させるタイプで、自分だったらどう考えるか、どう思うかを意志決定させ、追究させて行く学習問題	ゴミを少なくするためには、日頃からどんなことに気が付いたらよいでしょうか。
作業・体験(的)型	作業型は主に机上で手を使った活動であり、体験型はさらに体全体を使った活動であり、活動の場も教室や校舎の外に出ることが多い。	北海道の小学校に手紙を出して、くらしのようすを調べてみましょう。 学校のごみを集めて、ごみの種類を調べよう。

## イ 学習問題の最低条件

- ◆ 学習問題を追究していくと、ねらいを達成できるか。(子供たちが調べたいとする学習問題と教師のねらいとの整合をどう図るか。)
- ◆ 具体的な事実にもとづいて生み出されているか。(学習問題は観察や資料などを通して把握した具体的な事実や活動・体験にもとづいてつくられなければならない。)
- ◆ 子供のやる気を引き出すのもか。(子供が興味・関心を示し、意欲をもって取り組めるものであり、子供にとって切実な問題であること。)
- ◆ 子供なりの予想を立てることができるものか。(子供の発達段階を越え難しすぎるか、抽象度が高い内容では、子供たちが予想を立てられない。)

## ウ 学習問題作りの手順

下記の図表は北 俊夫による「学習問題づくりの手順」を示したものである。



学習問題をどうつくるかということは、指導計画をどう作成するかということになる。そのためには、上図にあるようにまず、指導のねらいを押さえるために指導要領の目標の分析、検討が必要となってくる。⑤の実践は子供の学習場面においては第一次に来ることがほとんどであるが、その時間の指導案を考えるためには図にあるような順番(①~⑥)で対応して行くのがより効果的であると思われる。

学習問題づくりの最大のポイントは⑤の事前の教材と発問の工夫にあると言われている。この方法によって「さとうづくり」の小単元で学習問題を作成したものを次に示す。



「さとうづくり」における学習問題が生み出される過程における教材と発問の構造

発問	資料	子供の意識の変容
① この3つのきびの違いは何ですか？	<p>&lt;きびの実物3種&gt;                      現在、沖縄でつくられているきびは幾種類かあり、地域や農家によって、植えられている種類はさまざまである。</p>	きび畑でつくられているきびには、いくつかの種類があることにはじめて気づく。
② どの種類のきびが多くつくられていると思いますか？その訳も考えましょう。	<p>&lt;台風によるきびの被害の新聞記事&gt;                      沖縄の気候条件（台風、日照り）に強い品種が植えられている。</p>	太い方がたくさんつくられていると思ったが、そうではないことに対する驚き。きびづくりには気候が大きく関与することを知る。
③ 多くつくられている種類のきびは、どこから手に入れたのでしょうか？	<p>&lt;品種改良による増産が分かるグラフ&gt;                      きびは、品種の改良によって取れ高が増えてきている。</p>	きびの取れ高は一定ではなく年々変化するが、おおむね増える傾向にあり、それが品種の改良によるものであることに気づく。

予想 予想を確かめるためにきびづくりについて調べたいことをまとめる。

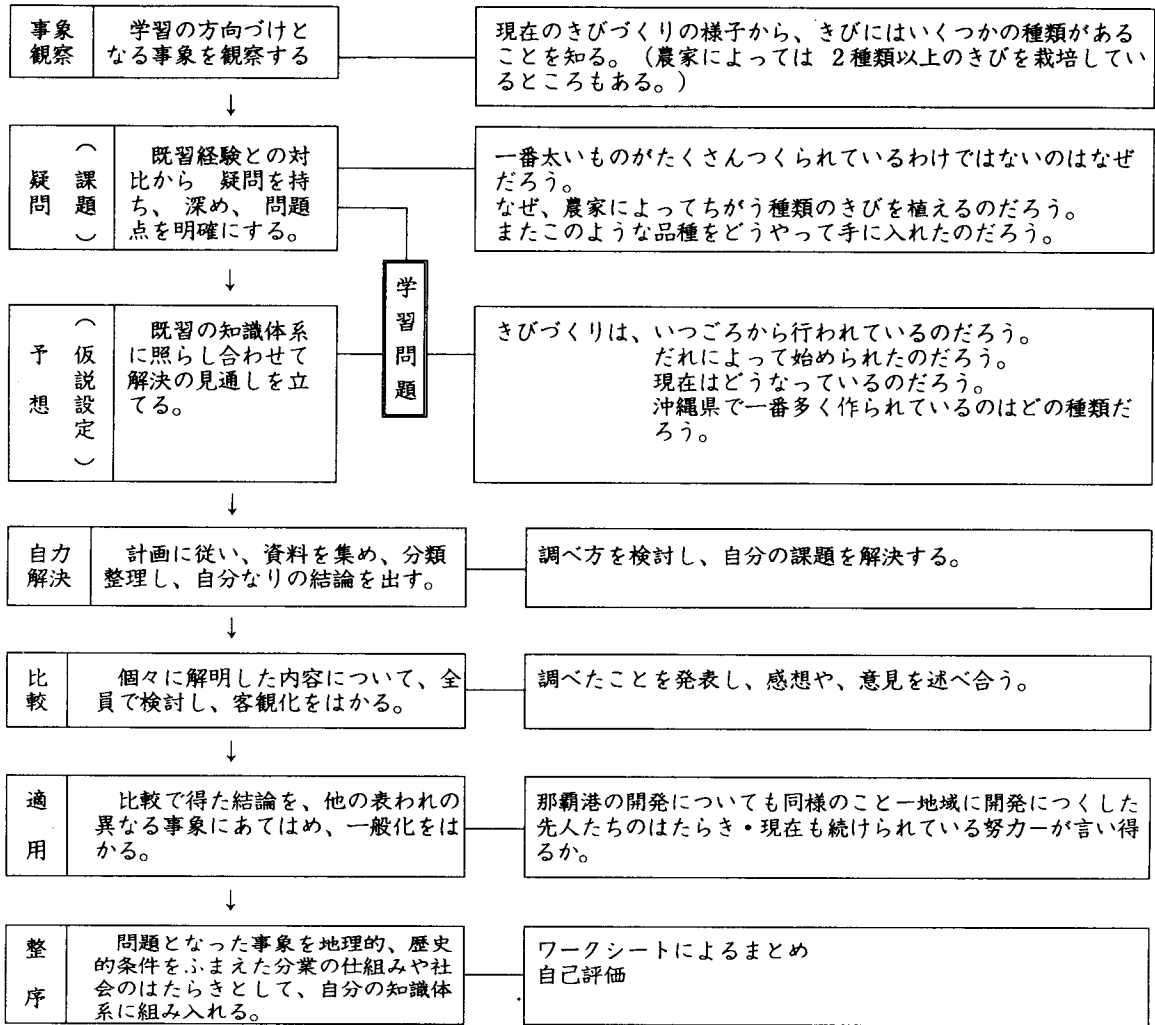
学習問題：きびづくりはいつごろ、誰によって始められたのだろうか。

② 一単元一学習問題

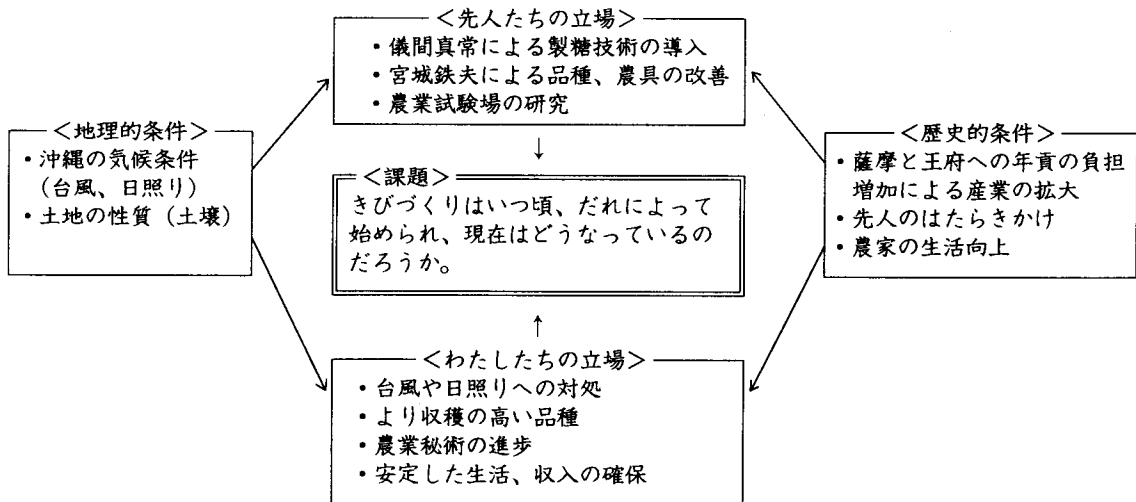
子供が自分で分かっていく学習過程の試みとして一単元一学習問題というものがある。これは「既習経験とのずれから、問題を発見し、解決の見通しを立て、資料を集め、実証する、この学習を子供が主体的に進めるには、一単元一学習問題が限度である」と考え、そのためには「学習問題は、単元の内容全部を包含することがよい」としているものである。それを参考にした「地域の発展につくした人々」の学習のステップを次のページに示す。このなかで、整序の段階における知識体系の組み入れに使われるのが「二観点、二条件による関係づけ」である。これは、「学習のねらいを達成できる素材を選択したのち、素材に含まれる要素（学習内容の最小の単位）を学習内容から取り出し、これらの要素をねらいに従い、まとまりごとに分類整理し事象の本質にせまる様に組み立てる」ものである。（千葉県八千代市立大和田南小学校 研究紀要 第14集より）

「さとうづくり」における学習の内容を、二つの条件（地理的条件・歴史的条件）と二つの観点（個の営みの立場・社会の立場）で構造化したものが次の図である。

<学習のステップ>



<学習内容の構造化>



### 3 地域教材の開発

社会科教育においては、地域社会についての学習が重視される。特に問題解決学習をするには効果的であるが、しかしこれは、ただ手近にあって便利で親しみやすいということのためだけではない。地域教材を開発し、子供たちがそれらに取り組むということは、子供たちに社会的なものの見方や考え方を育てるとともに、地域理解を深め、地域社会を大切にしようとする態度を育てるうえで、重要な意義を持っているのである。

子供は、ことがらや問題を自分に引きつけて考え、自身の自己統一にかかわらせて追究することができる。人は生きて行くうえで、いろいろな「差し」を使って、未知の事物、事象を認識していくが、自然条件について考えたり、社会事象を判断するためには、“地域や郷土”や“そこに暮らす人々のさまざまな生活や営み”が「物差し」になり得る。「差し」になり得る地域を学び、地域に学び、地域で学ぶことが、地域と他を比較し、類似性や、相異性を見つけることによって、他を知り、他を学ぶことを可能にするのである。さらには、地域に教材を求めることは、地域に閉じこもって案ずることではなく、そこから視野を広げることであり、それは世界にまでつながっていくのである。

#### (1) 社会科における地域学習の意義

朝倉 隆太郎による地域学習の意義をまとめると次のようになる。

##### ① 地域は社会事象を意味づける場である。

社会科では、社会事象の持つ社会的意味とか本質とかを追究することが重要である。社会事象の持つ意味とか本質がわかるということは、なんらかの意味で全体と部分との関係、社会と個人との関係が認識できることである。したがって、個々の社会事象が地域の中でどんな意味を持っているのか、個々の社会事象が地域の中でどんな関係で生起しているのかを理解しなければならない。ところが、それらは、児童生徒の目には直接見ることでできない抽象的概念である。抽象的概念の理解は、目に見える具体的事象を通さなければ難しい。地域には児童生徒が見ようとすれば見ることでできる教材が豊富に存在する。したがって、それらを活用することにより、児童生徒の発達段階に応じて、事象相互の関係や、部分が持つ意味を理解させることができる。

##### ② 地域は社会生活の原則を発見させる場である。

地域学習においては、地域に見られる地方的特殊性の背後に潜む一般的共通性の発見が重要である。地域学習の科学的裏付けのためには、「何がどうなっているのか」の学習から、「なぜそうなっているのか」への学習へ進まなければならない。そして「なぜ」という理由が明らかになり、それが真理に近いものであれば、今後「どうすればよいのか」への適せつな方途が見つかり、地域おこしも可能になるであろう。

##### ③ 地域は社会の発展を願う気持ちを養う場である。

現在居住している地域が、たとえどんな困難な問題を抱えていてもそれを克服し地域の発展を願う気持ちを養うことこそが、社会科教育の本質である。地域を「その価値ゆえに」指導してはじめて自分たちの住む地域の発展を願い、考える態度が養われる。

④ 地域は社会科の学習能力を育成する場である。

地域の課題を解決するためには、そのために必要な数々の学習能力が必要になる。地域学習は観察力、資料活用能力、思考・判断力など、社会科の学習能力の基礎を育成する場である。

地域学習を効果的に行うには、教師の十分な知識が必要となる。教師が自ら地域研究を継続的に進め、その成果を児童生徒の発達段階に合わせ、教材化することが重要である。

(2) 「さとうづくり」について

この教材は、社会科の第4学年の目標の「(4) 地域の文化や開発などに尽くした先人の具体的な事例を調べて、先人の働きや苦心を当時の人々の生活の様子や考え、技術や道具などの面から理解できるようにするとともに、現在にあっても地域の人々との生活の向上と安定のためにいろいろな努力がなされていることに気づくようにする。」に対応したものである。現在における努力については、農家はもちろんのことであるが、地方公共団体の働きによって開発が進められていることにも気づかせる必要がある。その代表の一つに県の農業試験場があり、またもっと身近なものとして農協がある。今回の学習ではこの両方から資料を提供してもらった。以下はその主なものである。

◆現在、沖縄県で多くつくられている品種と適応地域（平成6年度の収穫面積）

品 種	面 積 ( h a )	適 応 地 域 < 特 徴 >
F 1 7 7	5 0 9 3 h a (ヘクタール)	本島及び周辺離島(ジャーガル地域と大東除く) 宮古、八重山(石垣島除く) <葉が太い>
N C O 3 1 0	2 9 7 8	県全域
F 1 6 1	2 9 2 5	大東、宮古、八重山 <茎が赤い>
F 1 7 2	1 7 4 7	県全域 <葉が太い>
N i F 4	9 8 9	県全域
I R K 6 7 - 1	5 8 2	
N i 9	3 1 1	県全域 <とげがあり、葉は上にむいている>
N i N 7	5 5	宮古、八重山
N i 6	3 8	本島中南部
N i F 8	3 4	県全域

《今、一番新しい品種は、農林10号(NiTn10)、農林11号(Ni11)、農林9号(Ni9)、農林8号(NiF8)である。農林10号と11号は多収で茎のそろいがよく機械化体系に適応した品種で、来年の夏植えから農家に配布される予定。》

台風や、害虫・病気などに強い品種はもちろんであるが、現在はそれぞれの地域の土壌に合った品種の改良や、機械化体系に適応する品種の改良が進められている。

◆宜野湾市のきびづくりについて

- ・きびづくり従事者 70人
- ・きび畑は、14ヘクタール（であるが、市内に所在しているのは6ヘクタールだけで、残りは西原や中城、北中城などで作っている。）
- ・一番多くつくられているのは、NCO310で、次に多いのは農林8号や(NiF8)や農林9号(Ni9)
- ・市内で収穫されたきびは、翔南製糖工場（西原）へ運ばれる。

#### 4 評価について

##### 社会科における評価の観点の趣旨

学習指導要領に基づく社会科の評価の観点は次のとおりである。

評価の観点	観 点 の 趣 旨
社会的事象への関心・意欲・態度	社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べることを通して社会の一員として自覚を持って責任を果たそうとする。
社会的な思考・判断	社会的事象から課題を見だし、社会的事象の持つ意味を考え、適切に判断する。
観察・資料活用の技能・表現	的確な観察や基礎的な資料の活用を行うとともに、その成果を具体的に表現する。
社会的事象についての知識・理解	社会的事象についてその特色や相互の関連を具体的に理解している。

##### 【社会的事象への関心・意欲・態度】

子供一人一人が社会科の学習活動に自ら積極的に取り組み、学習の成果を実際の生活に生かし、より良く生きることができるようになることをねらっている。自ら学び続ける意欲や学習して得たことを学習や生活に生かそうとする態度を身につけることは、生涯学習社会において意欲的に学び続け、主体的に生きる基礎づくりをする観点から、重要である。

##### 【社会的な思考・判断】

自ら思考し主体的に判断して、問題解決したり創造したりする能力を身につけることができるようになることをねらっている。社会科においては、知識偏重の学習に偏らないようにするとともに、社会的事象についての確かな事実認識をもとに、自分自身や自身の生活との関連を図りながら、その意味について主体的に思考し判断できるようにすることを重視しているもので、これは、社会科の新しい学力観を構成する中核となるものである。

##### 【観察・資料活用の技能・表現】

子供が観察や資料活用の学習活動を積極的に行ったり、調べたことや思考し判断したことを分かりやすく表現したりする能力を身につけることができるようになることをねらっている。これからの情報化社会を主体的に生きて行くためには、情報を収集・選択するだけでなく、伝達や創造等の能力を身につけることが大切であり、ここでは、観察や資料活用の技能の習得とともに、豊かな表現力の育成を重視している。

##### 【社会的事象についての知識・理解】

社会的事象についての網羅的な知識を習得する学習にならないよう、社会的なものの見方や考え方を身につけ、これからの社会を主体的に生きて行くことができる資質や能力を育てることとの関連を図りながら、社会的事象の特色や相互の関連を具体的に理解できるようにすることが大切である。

## V 授業実践

### 社会科学習指導案

平成8年12月17日（火）5校時

普天間第二小学校 4年2組34名

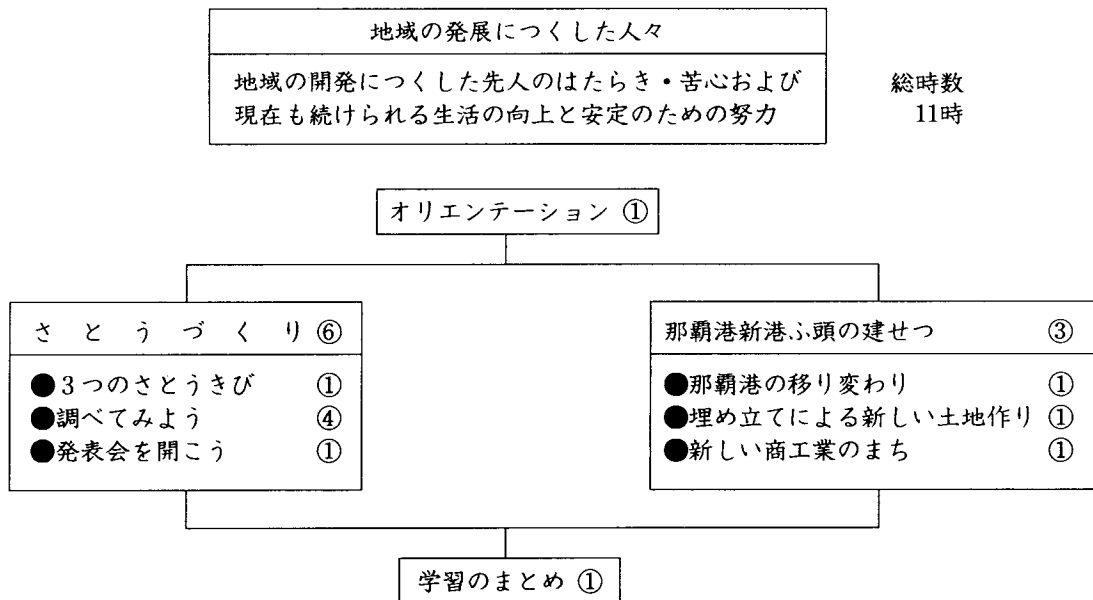
授業者 比嘉雅江

#### 1 単元名 「くらしを高めるねがい」

#### 2 単元目標

- (1) 地域の開発につくした先人のはたらきを調べ、当時の人々の願いやその実現のための努力・工夫をとらえるとともに、現在にあっても地域の人々の生活の向上と安定のために、いろいろな努力がなされていることに気づく。
- (2) 地域の基幹作物を手がかりに、地域の昔の開発についての問題の解決を図り、調べたことを工夫して発表する。

#### 3 単元の構成



#### 4 小単元名

##### (1) 単元設定の理由

この単元では、いろいろな地域の開発や文化などにつくした先人たちのはたらきの中で沖縄の基幹作物のひとつであるさとうづくりの開発を取り上げる。沖縄には各地にさとうきび畑が見られ子供たちも一度は目にしている。4年生では「県の人たちのくらし」の中できびづくりが盛んなことを学習しており、また、さとうきびからさとうが作られることもよく知っている。しかし、このきびづくりが長年沖縄の

経済を支えてきた作物であることにまで思いを及ぼすことは、むずかしいと思われる。そこで、現在目の前にあるさとうきびの栽培の様子からでてくる疑問を解き明かす過程において、きびづくりには先人による開発のための努力・工夫があったことをとらえることができ、現在もなお開発の努力がなされていることに気づかせるようにしたい。

## (2) 小単元の目標

沖縄のきびづくりは昔の沖縄の暮らしを向上させるために儀間真常によって広められたことを知り、その後、宮城鉄夫らの努力で沖縄により適したきびづくりが開発され、今なお農業試験場などによって開発の努力・工夫がなされていることを知る。

## (3) 基礎・基本的内容

(基本)わたしたちの住む沖縄では、昔からさとうきびづくりが行われており、その開発のための努力や工夫は先人からなされ、現在もなお人々の暮らしを高めるための努力がなされている。

(基礎)・沖縄ではさとうきびづくりが盛んである

- ・きびづくりを広めたのは儀間真常であり、きびづくりは当時の貧しい生活を大きく変えた。
- ・その後、宮城鉄夫の努力により生産が高まった。
- ・現在は、主に農業試験場できびづくりの研究が行われている。

## (4) 児童の実態（アンケート結果は15ページ参照）

社会科の勉強は、体験学習がわりとあるので、好きだという子が多い。地図をかくから好きだというのは男子だけで、女子にはいなかった。

学習の形態としては、先生に教えてもらうよりは、自分たちで調べる方を好む。グループで調べ学習をするのが好きだという子が多いが、中には、おしゃべりや文句があるので自分だけでやった方がいいという子もいる。ふだんから集団になかなかなじめない子が2、3名いてその子たちはグループ学習は好まない。

4～7については、さとうきびについてたずねたものである。以前に他のクラスからきびを分けてもらって味見をしたことがあるので、全員が食べた経験をもっている。自分の家できびづくりをしているところはなく、親戚の家で作っているという子が6名いた。その子たちのほとんどがきびたおしを手伝ったことがあると答えている。さとうきびについては、固くて、甘い汁が出て、それから砂糖が作られることや、沖縄のような暖かいところで育つといったことを知っている程度である。

《アンケート調査結果》

児童の実態を把握するために、アンケート調査を行った。(調査時 32名)

1、あなたは社会科の勉強が好きですか。(理由)

はい	72% (見学がある・新聞や地図を書く・いろんなことがわかる)
いいえ	28% (覚えるのが多い・むずかしい)

2、あなたは、どんな方法で社会科の勉強をするのが好きですか。

先生が教える	9% (わかりやすい)
自分で調べる	22% (さっさとできる・さがすのが楽しい)
グループで調べる	69% (友達と協力できる・相談できる・早くできる)

3、あなたが、社会科の勉強をするとき、嫌いなやり方はどれですか。

先生が教える	12% (覚えさせられる)
自分で調べる	69% (時間がかかる・相談できない・むずかしい)
グループで調べる	19% (おしゃべりする・ケンカや文句がある)

4、あなたは、さとうきびを食べたことがありますか。

はい	100%
いいえ	0%

5、あなたの家や、親戚の家でさとうきびを作っている人がいますか。

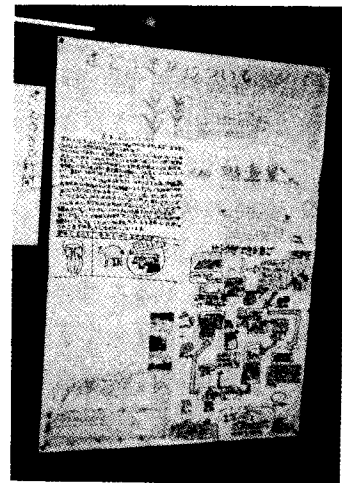
はい	19% <親戚の家 19%>
いいえ	81%

6、きびたおしを手伝ったことがありますか。

はい	19%
いいえ	81%

7、さとうきびについて知っていることを書きなさい。

かたい、あまい、汁が出る
さとうが作られる
暖かいところで育つ
沖縄で作られている





(5) 観点別評価

観 点	評 価 の 基 準
関心・意欲 態度 A	きびづくりの開発について関心を持ち、意欲的に調べようとするとともに現在もなお生産を高める努力や研究が続けられていることに関心を持つことができる。
社会的思考 判断 B	現在のきびづくりの様子と、そこに至るまでには先人による開発の努力があったことを考えることができる。
資料活用の 技能・表現 C	資料を基に効果的に調べ学習を行うことができ、それを整理したり自分の意見や感想を付け加えながら効果的にまとめて上手に表現できる。
知 識 理 解 D	地域の開発に尽くした先人たちのはたらきと、当時の人々の願いや、その実現のための努力を理解でき、現在にあっても地域の人々の生活の向上と安定のためにいろいろな努力がなされていることが分かる。

5 指導計画

時 間	学 習 活 動	ねらいと評価の観点
第一次 (1時)	「なぜ3種類のきびを作っているのか」という問いから、考えを出し合い、きびづくりについて自分なりの課題を持つ。	・自分なりの課題を見つけることができる。 観点A、B
第二次 (4時)	テーマを決定したら調べ方を検討し、各グループに分かれてそれぞれの課題を追求する。	・どうやったら調べられるかを考え、調べたことをどのようにしてまとめるかを相談して、グループで協力して活動させる。 観点C、D
第三次 (1時) 本時	調べたことを自分の意見や感想を加えながら工夫して発表し、お互いに感想を述べ合い、ワークシートに分かったことをまとめる。	・地域開発に尽くした先人たちのはたらきや現在のきびづくりの様子や開発の努力が分かる。 観点A、B、C、D

6 第一次（1時）の学習

(1) 本時のめあて

畑でさとうきびを作っている人がなぜ3種類も作るのかを考え、意見を述べ合うことによって、さとうづくりについての課題を持つ。

(2) 本時の仮説

- ・地域教材において、ふだん見慣れているものでも、視点を変えることによって課題を見つけることができるであろう。
- ・課題に対して予想を立てさせることで、その予想を確かめるために見通しを持って主体的に学習に取り組むであろう。

(3) 展開

時間	学習の流れ「発問」	予想される子供の反応・留意点(個への手立て)	説明、補足、資料・評価の観点
導入	<p>・Nさんが作っている3種類のきびの違いを見つける。</p> <p>「この3つのきびのちがいはなんですか?」</p>	<p>・色が違う</p> <p>・太さが違う</p> <p>・葉が多い</p> <p>*答えられない子には色や長さなどの視点を与える。</p>	<p>きびの実物3種</p> <p>フラッシュカード</p> <p>表 裏</p> <p>A おがさわら</p> <p>B NCO</p> <p>C F160</p> <p>観点A</p>
展開	<p>・「Nさんはどの種類のきびを多く作っていると思いますか?その訳も考えましょう。」</p>	<p>・太いものたくさん取れそうだから</p> <p>*訳がきちんと言えるようにワークシートに書かせる。</p> <p>*考えつけない子には、沖縄の気候条件などのヒントを与える。</p>	<p>NCOが一番多い</p> <p>沖縄の気候条件に適している一台風、日照り(資料提示-台風によるきびの被害の新聞記事)</p> <p>VTRで実際の畑の様子をみる。</p> <p>観点A</p>
展開	<p>・「NCOはどこから手にいれたのでしょうか?」</p>	<p>・近所の人から</p> <p>・日本から</p> <p>・外国から</p> <p>・農協から</p>	<p>農業試験場から農家に配られた</p> <p>(資料提示-NCOの普及による増産が分かるグラフ)</p> <p>農業試験場は1881年設立であることをグラフから補足説明しておく。</p>
閉	<p>・「農業試験場がなかったころはどうやってきびを手にいれたのでしょうか?」</p>	<p>・それまでは、きびは作られてなかった</p> <p>・もともと沖縄にあった</p> <p>・外国から持ってきた</p> <p>*ワークシートに予想を書かせる。</p>	<p>観点B</p>
まとめ	<p>・予想を確かめるためにきびづくりについて調べたいことをまとめる。</p>	<p>・いつ頃から始まったのか</p> <p>・だれによって始められたのか</p> <p>・現在はどうなっているのか</p>	<p>観点A</p>

## 7 本時の学習（第三次の1時）

### (1) 本時のめあて

自分たちで調べたことを意見や感想をくわえながら工夫して発表し、他のグループの発表に対して感想を持つことができる。

### (2) 本時の仮説

自分たちで調べたことを様々な形態で発表することによって、個を生かした授業展開ができ、他の発表を聞きワークシートにまとめることによって学習内容の理解が深まるであろう。

### (3) 展開

時	学 習 の 流 れ	指 導 上 の 留 意 点 ( 個 へ の 手 立 て )	評 価 と 基 礎 ・ 基 本								
導 入  展	1 めあての確認	・めあてをしっかりと確認させる。	観点C								
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことがはっきりと分かるように発表する</li> <li>・発表者がどんなことを調べたのかしっかり聞く。</li> <li>・自分の感想をきちんと書く。</li> </ul> </div>										
開  ま と め	2 各グループの発表	・プログラムに沿って発表させる。	観点C B 観点C D 観点C D 観点A C  ・沖縄のきびづくりの様子 ・先人たちのはたらき ・農業試験場の仕事  観点D								
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">1 地図・表・グラフ</td> <td>きびのルーツ、県の生産高、品種の移り変わり</td> </tr> <tr> <td>2 劇</td> <td>儀間真常と砂糖づくり</td> </tr> <tr> <td>3 ペープサート</td> <td>宮城鉄夫のはたらき</td> </tr> <tr> <td>4 クイズ</td> <td>砂糖作りについてのまとめ</td> </tr> </table> </div>			1 地図・表・グラフ	きびのルーツ、県の生産高、品種の移り変わり	2 劇	儀間真常と砂糖づくり	3 ペープサート	宮城鉄夫のはたらき	4 クイズ	砂糖作りについてのまとめ
	1 地図・表・グラフ	きびのルーツ、県の生産高、品種の移り変わり									
	2 劇	儀間真常と砂糖づくり									
	3 ペープサート	宮城鉄夫のはたらき									
4 クイズ	砂糖作りについてのまとめ										
3 感想の発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれのグループは、発表の後に一人ひとり感想を述べさせる。</li> <li>・一つのグループの発表が終るごとに感想と分かったことを書かせる(ワークシート)</li> <li>・各グループの発表に対して、感想を発表する。</li> </ul>										
4 先生のお話	・教師から、これまでの学習・発表及び感想について講評を述べ、まとめる										
5 まとめ	・小单元について、ワークシートで自己評価をする。										

きびづくりについて調べよう (氏名 座間味勇気)

1. 予想を書いておこう。  
 ・いつ頃から畑で作られるようになったのだろう。  
 めいじ  
 ・どこから伝わったのだろう。  
 あたがりが島  
 ・何のために作るようになったのだろう。  
 うるため  
 ・だれがはじめたのだろう。  
 かりはつした人  
 ・昔ほどの種類のきびを作っていたのだろう。  
 オガサワラ

2. 調べる方法  
 ①本  
 ②インターネット  
 ③しりまひのメンバー

3. 発表の方法  
 クイズ

<グループのメンバー>  
 ①委員長(伊達)  
 ②あきこ  
 ③たけし  
 ④ひろみ  
 ⑤だいら



(きびづくりについて)の発表  
 1 しっかり聞くことができましたか。(○)  
 2 発表の仕方はよかったですか。(◎)  
 3 発表したことがよく分かりましたか。(◎)

分かったこと、感想  
 よくわかたせは、さとうづくりが中国から伝わってきた事です。最初から沖縄だけにありと思いました。

(きまじんじょう)の発表  
 1 しっかり聞くことができましたか。(○)  
 2 発表の仕方はよかったですか。(◎)  
 3 発表したことがよく分かりましたか。(◎)

分かったこと、感想  
 わたしはきまじんじょうという人はたださとうきびを見つけた人だとおもっていましたが、きまじんじょうという人は、すごいなあー、と思いました。

(宮城 鉄夫に)の発表  
 1 しっかり聞くことができましたか。(○)  
 2 発表の仕方はよかったですか。(◎)  
 3 発表したことがよく分かりましたか。(◎)

分かったこと、感想  
 宮城 鉄夫という人は、おもしろい人だと思いました。さとうきびのことがよくわかりました。さとうきびのしゅみりや名産品、さとうきびのベスト10とかがわかりました。

(サトウキビクイズ)の発表  
 1 しっかり聞くことができましたか。(○)  
 2 発表の仕方はよかったですか。(◎)  
 3 発表したことがよく分かりましたか。(◎)

分かったこと、感想  
 クイズがおもしろかったです。ほとんどわかりました。さとうきびの事がよくわかりました。さとうきびのしゅみりや名産品、さとうきびのベスト10とかがわかりました。



さとうづくりの勉強をして (名前 新井 和香奈)

1 自分で調べてみてわかったことを書きましょう。  
 ・白ざとうか、ろして白いのがわかった。  
 ・さとうをいぼるきかいが、どんなきかいかわかった。  
 ・座間味勇気じょうのことが、座間味 鉄夫のまぶく分かってよかった。  
 2 発表会を見て初めて分かったことやおどろいたことを書きましょう。  
 糸は、F177が多く作られてることを聞いてびっくりしました。  
 (NCOが多く作られると思作。)

3 自分の予想と比べてどうでしたか。  
 ぜんぜんちがってました。

4 もっと知りたいことや調べてみたいことを書きましょう。  
 さとうきびは、何しゅみりがあるのが知りたい。

5 その他(何でも)思ったことを書きましょう。  
 ・さとうきびをつくる農家の人の仕事はたいへんだと思いました。  
 ・とても楽しい発表会かできてうれしかった。

## VI 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- ・自分たちで調べ学習をする過程の中で、分かったことに対する喜びを得たり、グループ学習のなかで協力することのよさや、助け合ったりすることの素晴らしさを味わうことができた。（多くの子が調べ学習は難しいと言いながらも、みんなでやったので楽しかったと感想を述べていた。）
- ・ふだん、グループ学習を好まない子が、今回の学習の後で、次回もグループで学習したいと言うようになった。
- ・自分のやりたい方法で発表させたので、それぞれの子供の持ち味が生かされた。（個を生かすことができたと思われる。）
- ・ふだん手掛けにくい地域の学習を取り上げることで、自分自身の地域に対する認識が深まった。

### 2 今後の課題

- ・今回は、時間の都合で体験学習を思うように取り入れることができなかった。また、問題解決的学習はかなり時間をとられるので、今後は年間計画の中でどう取り扱っていくかを検討することが必要であろう。
- ・すべての子供にとって、切実である学習問題を持たすことはかなり難しく、今後の課題として研究を重ねたい。
- ・調べ方や資料の調べ方は、社会科だけではなくふだんの学習においても指導を積み重ねることが大切であると感じた。

### おわりに

かねてからその必要性を感じながらも、なかなか手をつけられなかった地域の学習をこの機会に研修することができ、大変うれしく思っています。研修の機会を与えてくださいました宜野湾市立教育研究所と、ご指導いただきました教育委員会の先生方、指導主事の先生方、その他にもたくさんの方々のお世話になり、心より感謝申し上げます。

#### 《主な引用・参考文献》

中野重人・高野尚好 編著「社会科の個別化・個性化指導」明治図書 1987年

北 俊夫 著「新社会科・学習問題づくりの指導技術」明治図書 1995年

北 俊夫 著「新学力観に立つ社会科」明治図書 1995年

朝倉 隆太郎 編著「地域に学ぶ社会科教育」東洋館出版社 平成元年

高岡 浩二・西野 範夫 編「新しい学力観に立つ授業と評価の手引き」明治図書 1995年

